

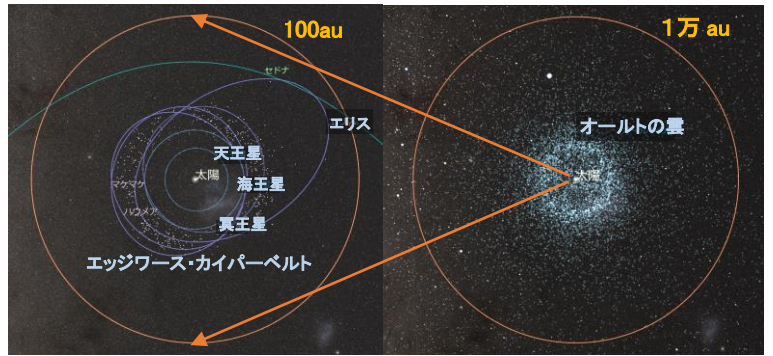


ジオスペース館だより

★ 太陽系外縁天体って、どんな天体！？

【太陽系の天体 その9】

望遠鏡や観測技術の進歩で、1990年代から、冥王星の周辺や、さらに遠くにも、たくさんの小天体が、次々と発見されており、海王星（約30au※）より外側にある太陽系の天体を、全て《太陽系外縁天体》と呼んでいます。そして、太陽系外縁天体の中でも、海王星のすぐ外側約30~50auのところ、たくさんの小天体が集まっていて、海王星から内側をドーナツ状にとり囲んでいる場所をエッジワース・カイパーベルト、そこにある天体をエッジワース・カイパーベルト天体といいます。エッジワース・カイパーベルト天体はこれまでに1000個以上が発見されており、冥王星もその仲間です。もちろん、この外側にも小天体はたくさんあり、100auを超えるはるか遠くまで、まばらに円盤状に広がっています。これらの小天体を散乱円盤天体といいます。1996年に発見されたエリスは、散乱円盤天体として認められた最初の天体で、大きさは冥王星より少し小さいですが、重さは冥王星より重いことがわかっています。エリスが発見されたことで、冥王星ははたして惑星といえるのか、ということが問題となり、2006年に開かれた国際天文学連合総会で、冥王星が惑星からはずされたことは、ジオスペース館だより666号でお話したとおりです。

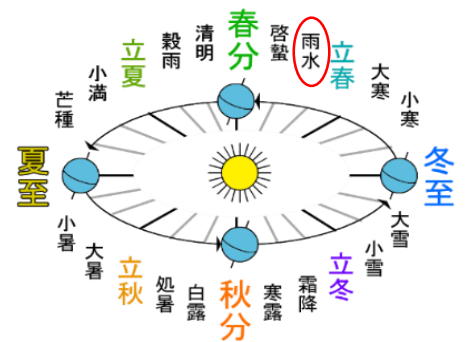


さて、散乱円盤天体のさらに外側の、1万~10万auという太陽系の果てまで、太陽系を球の殻のように取り囲んでいる、無数の天体群があると考えられています。これは、オールトの雲と呼ばれ、彗星の起源と考えられています。現在の技術では観測できないため、本当に存在するかどうかはわかりません。

※1 au=1天文単位（太陽と地球との距離で約1.5億km）

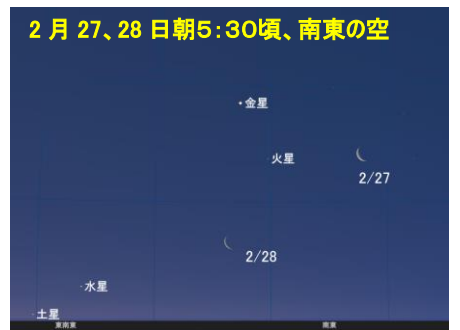
★ 二十四節気・2月19日は《雨水》

1年を24等分し、季節を表す二十四節気。2月下旬の節気は《雨水》と呼ばれ、毎年2月18日頃になります。《雨水》とは、降る雪が雨に変わり、雪解けが始まる頃、という意味です。実際にはまだ雪が残っている地域もありますが、この頃には、寒さも峠を越し、春へと向う季節で、昔から農業の準備を始める目安になっています。



★ 細い月が金星と火星に接近！

2月は日の出前の南東の空で、金星がとても明るく輝いています。27日と28日には、金星に細い月が近づき、幻想的な光景が見られます。月は、27日には金星の右にあり、28日には金星の下まで移動します。金星のすぐ下には、それほど目立ちませんが、赤い色をした火星も見えます。日の出の1時間ほど前に、暖かな服装でぜひ観察してみましょう。



星図は、Mitakaとステラナビゲーター11を使用して作成

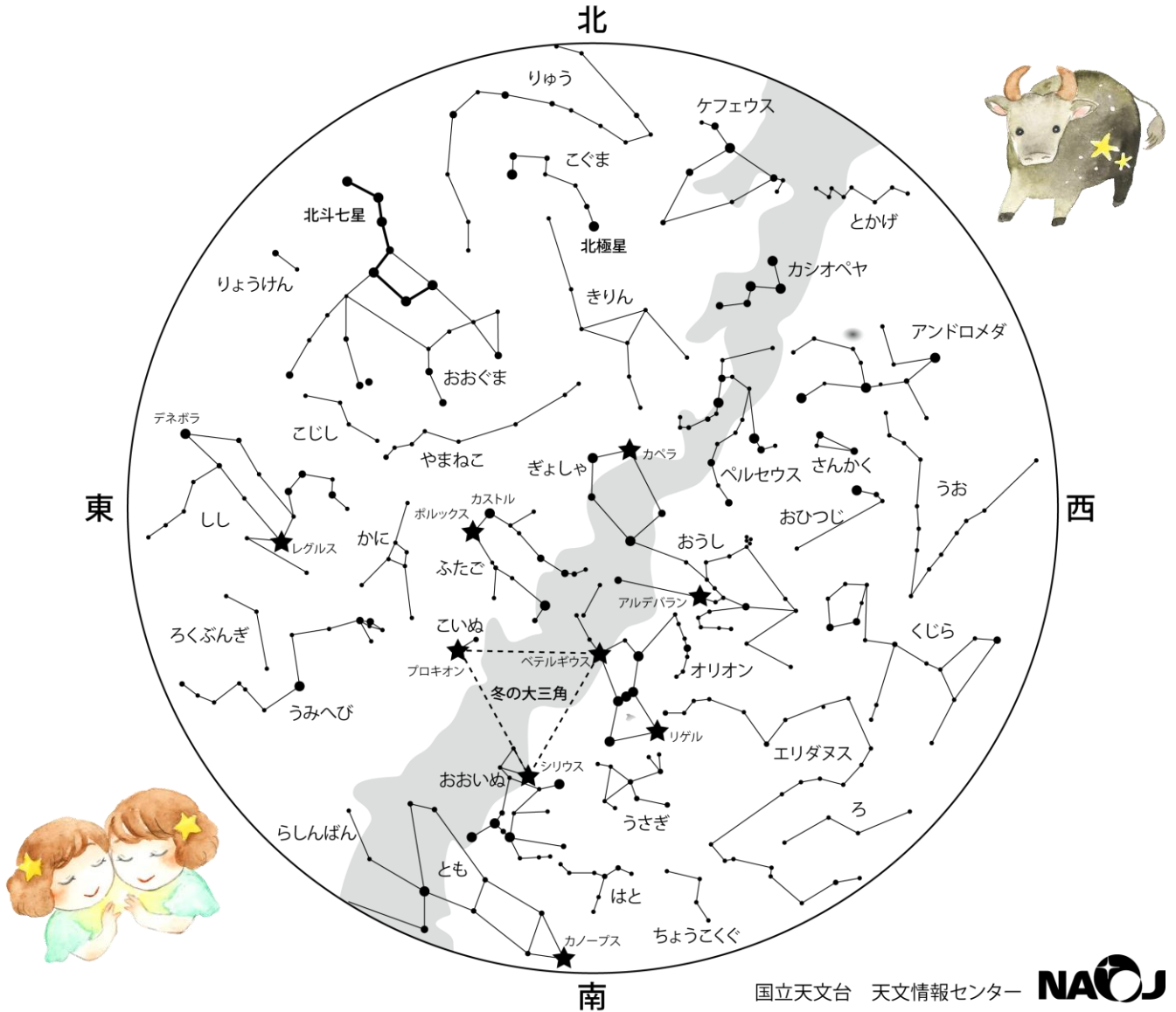
★ 2月のプラネタリウムの内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 2/15(火)、16(水)、21(月)、24(木)、28(月)

★ 新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。



2月下旬午後8時頃の星空



★ 2月下旬の主な天文現象

15日(火)	準惑星ケレスとプレアデス星団の接近	24日(木)	☾ 下弦
17日(木)	☉ 満月、水星が西方最大離隔	26日(土)	☾ 月がM8に接近
19日(土)	雨水	27日(日)～28日(月)	明け方の空で細い月が、金星、火星に接近

★ 国際宇宙ステーション(豊川での主なデータ2/15～28) ※ 下記時刻は、予想値です

◇ 2月17日(木)	[見やすさ ○]	5:43	南南西	～	5:49	東北東
◇ 2月19日(土)	[見やすさ ◎]	5:43	南西	～	5:49	北東
◇ 2月20日(日)	[見やすさ ◎]	4:57	南	～	5:01	北東
◇ 2月21日(月)	[見やすさ ○]	5:44	西	～	5:49	北北東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。